１．前計画「FIJ３か年計画（2018～2021）」の概要　（2020年に3か年計画⇒4か年計画に変更）

FIJの目的：定款3条
森林及び林業の役割とその重要性の啓発並びに森と人を結ぶ活動展開

森林インストラクターの目的：
・森林の総合的な利用を推進
・山村及び林業の活性化に資する
・森林環境教育活動の一層の拡大

2020年のFIJの姿（目標）

①FIJのブロック活動（ブロック単位または隣接ブロックが連携した活動）が、全国各地において継続的に展開している。
②森林・林業の役割の重要性を伝える活動が、複数のブロックで定着している。
③森林・林業・山村・木材に関する調査研究事業を継続的に行っている。
④観光業との連携による森林の総合的な利用の推進が複数のブロックにおいて定着している。
⑤学校教育等における森林環境教育の一層の拡大継続的な取組みが複数のブロックで定着している。
⑥上記の活動展開を推進するシステム及び体制の構築が進み、FIJ会員数の減少幅が縮小し増加傾向に転じる状況にある。
⑦2021年度以降の活動展開計画について検討し公表している。

●「森林・林業の役割の重要性を、楽しく、わかりやすく、効果的に伝える」能力の向上・プログラムの開発・実施
●観光業との連携事業の実施体制の構築による、森林インストラクターの活動の場の確保及び森林の総合的利用の推進
●新たな学習指導要領の視点を踏まえた、森林・林業・山村に関わる主体的・対話的・深い学びのプログラムの実施体制の構築

現状と課題

【現状】森林・林業の役割の重要性を伝えるという、資格制度がめざす本来的な任務を離れた活動も増加し、森林インストラクター資格制度の目標や重点的な活動項目が不明確になりつつある。
【課題】森林・林業の役割の重要性を楽しく、わかりやすく、最新の情報を効果的に伝えるための知識とスキルを実地に習得できる機会と体制構築が必要。

FIJ３か年計画（2018～2020）

2018年度

３つの委員会を立ち上げ、研修企画の具体的な検討を開始する。
●「森林・林業普及啓発取組委員会」＝山村及び林業の活性化
・・研修コンテンツ・実地研修のフィールドの検討・研修の企画
●「観光業との連携事業推進委員会」＝森林の総合的な利用の推進
・・観光業への企画案を作成、現地にてガイドとしての研修実施
●「学校教育等との連携取組委員会」＝森林環境教育の一層の拡大
・・新たな学習指導要領の視点での森林環境教育拡大の留意点整理

2019年度

●実地研修の林業フィールドを選定し研修を試行し、研修企画を実践的に検討
●観光業への企画案（第2弾）を作成し、現地にて研修を実施
●学校教育との連携事例をもとにプログラムの作成（10事例）

2020年度

●研修カリキュラムを見直し、参加者を公募し、研修を実施（1地区以上）、研修の試行（1地区以上）
●観光業への企画案（第3弾）を作成し、現地にて研修を実施・受託できるネットワークの構築
●新たな学習指導要領にもとづく教科書に準じたプログラムの提示

FIJ第２次３か年計画（2022～2024）

はじめに

FIJ第１次3か年計画（2018～2021）の達成状況について

FIJ設立以来はじめての3か年計画（2018～2020）として2018年8月に公表した計画は、2020年2月以降、新型コロナウィルスの世界的な感染拡大（パンデミック）に遭遇したことから、計画期間を2021年末まで延長することとしたが、最終年度の事業計画の実施停止など、想定外の展開となった。

具体的な目標（目標とした「2021年のFIJの姿」①～⑦）の達成状況は、次のとおりであった。

①及び②のブロック活動の定着及び森林・林業の役割の重要性を伝える活動については、関西・中部ブロックにおいて、森林・林業啓発取組委員会が2年間にわたり計画どおりの活動を展開し、研修を試行し、固定フィールドでの全国研修の準備は整ったが、2021年まで長期化したコロナ禍のもとで、全国研修の実施は、2022年以降に延期することを余儀なくされた。関東ブロックにおける活動については、オンラインで検討を進め、東京西部山間部の市町村で活動することとしたが、現地検討は今後開始することなった。一方、コロナ禍の下、2020年6月、文部科学省補正予算の委託事業の企画競争公募事業に応募し、採択されたことを契機に、FIJ設立以来はじめて、定款に定める支部組織として、東北支部・関東支部・関西支部の3支部を設置し、子ども森林インストラクタープロジェクトの実施体制として、また、今後のブロック活動推進に向けた組織改革に向け、大きく前進した。

③の森林・林業に関する調査・研究活動については、FIJ会報2020年4月号以降、3名の会員に依頼して樹木・森林・林業をテーマとする「ステップアップ講座」の連載を開始し、さらに、2021年度には、同3名の会員を講師としたオンライン全国セミナー（樹木、森林、林業）を計6回企画し、開始した。

④の観光業との連携事業の複数ブロックで展開する計画については、2018年はJTB霞が関事業部の協力を得て長野県内で座学と実地の研修を実施、2019年は同じく長野県内北八ヶ岳での座学・実地研修を実施し、観光業の実態について理解を深め、観光業との連携の課題が明確になった。すなわち、FIJの特徴を活かしたフィールドの設定とFIJの主体的な企画を前提としたうえでの観光業との連携が必要であることが明確となり、併せて、関東・中部・関西の会員の連携体制構築を進めた。

⑤の学校教育との連携による森林環境教育の一層の推進を複数ブロックでの取組については、小学校の新しい学習指導要領に基づく検定済み教科書が2019年6月に閲覧可能となったことを受け、（公社）国土緑化推進機構の委託を受け、すべての新たな教科書における、樹木・森林・木材・山村についての記述と学習指導要領との関係を調査した。同年8月にはその概要を東京で、2020年3月には日本森林学会で発表。その成果を活用し、コロナ禍のもとでの2020年文部科学省補正予算「子供の心身の健全な発達のための自然体験活動の推進事業」に企画提案し採択され、委託事業として、関東支部及び関西支部計10都府県において、「子ども森林インストラクタープロジェクト」として実施し、学校教育との連携を志向した事業を展開した。さらに、2021年3月には、（公社）国土緑化推進機構の委託により、冊子『新学習指導要領のもとでの森林体験活動展開』を作成し、広くFIJ会員及び森林環境教育関係者に配布した。子供森林インストラクタープロジェクトは継続実施することとし、併せて、2021年度文部科学省委託により2県において宿泊を伴う企画など、計画目標を上回る事業の達成状況となっている。

⑥の事業の推進体制の整備状況及び会員数の減少から増加傾向に転じる目標の達成状況については、支部の設置やブロック単位の会員の連携体制が構築され、2021年には、新規資格取得者の入会率が増加し、会員数も微増に転じるなど、所期の目標を達成することができた。

第1次3か年計画の達成状況の評価と課題

１．会員数の確保に向けた取組

長期にわたり継続していたFIJ会員数の減少については、第一次3か年計画の期間に減少傾向が鈍化し、微増に転じることができたことから所期の目標は達することができた。一方、人口減少及び急速な少子高齢化により森林インストラクター資格試験受験者数が減少が続いており、今後、FIJの会員数を安定的に確保するためには、森林インストラクターの認知度の向上、入会のメリットの明確化により新規資格者の入会率の向上に継続して取組む必要がある。

２．ブロック活動（ブロック連携を含む）としての森林・林業啓発取組委員会の取組

固定フィールドでの全国研修については、コロナ禍で実施できなかったため、第2次3か年計画での実施を目指す。その際、森林インストラクターの本来的な使命が、森林・林業の役割の重要性を広く一般の人々に楽しく、分かりやすく伝えることであることを、新たな森林の価値の創造の取組も含め位置づけていくことが課題である。研修対象者には、会員に加えて非会員の森林インストラクター資格者及び森林インストラクターを目指す者も対象に広げ、啓発活動などにより、会員の増加につなげる取組が必要である。

３．観光業との連携事業の推進の取組

コロナ禍により観光業は大きく変貌していることから、観光業の最新の動向を把握しつつ、森林インストラクターの特徴を活かした観光業との連携事業の推進に取組む必要がある。

４．学校教育との連携による森林環境教育の推進

子ども森林インストラクタープロジェクトの開始により、計画目標を超える成果が達成できたが、今後は、事業費の確保、支部（ブロック）及び地区（都道府県）へのプログラム企画支援・情報交換体制の構築、運営体制の強化が課題となる。

２．第2次3か年計画の作成に当たって～現状と課題～

コロナ禍の中で急速に一般化したオンラインシステムの活用により、FIJにおいては、遠く離れた会員同士の情報交換やオンライン全国セミナー等、新たな活動を開始した。引き続きICTの活用方法について工夫し、会員サービスの向上、会員活動のサポートを強化し、FIJの活動の活性化につなげることが望まれる。

一方、コロナ禍のもとで延期することとなった固定フィールドでの全国研修会等については一部を見直し、感染対策を講じながら、林業への理解を深めることに力点を置きながら新たな森林空間利用創出活動への参画として位置づけ、改めて計画し実施していく。

FIJの重点事業として取り組んできた観光業との連携事業については、今後も観光業の動向を見極めつつ、連携の在り方や企画内容を見直し、森林インストラクターの特徴を活かした企画とし、地域の活性化の視点を重視した取組を進める。

FIJは、設立以来30周年を迎えるが、その間、国内外の森林をめぐる課題は重要性を増してきている。すなわち、地球規模の気候変動や生物多様性の保全が喫緊の課題となり、ESD及びＳＤＧｓへの取組、また、国内における、森林環境譲与税、森林経営計画制度、森林サービス産業の取組、2050年カーボンニュートラル実現の目標設定などの取組が進む中、微力ながらFIJがステークホルダーの一員として果たすべき役割を明らかにしつつ活動に活かすことが必要である。

特に、SDGｓの目標４「すべての人々に質の高い教育を」は、FIJの活動そのものが「教育」に関わるものであることから主要な目標となると同時に、SDGｓの17の目標すべての実現の基盤となるとの観点から、広く教育及び森林に関わる様々なセクターと連携し、森林環境教育をESDの観点を重視して進めることとする。

以上の方針のもと、FIJ第２次3か年（2022～2024）おける重点項目を以下のとおり定め計画を策定する。

３．計画の３つの柱～全国組織ならではの活動展開

１．全国の会員同士の交流促進と活動サポート：オンラインシステム活用等による魅力あるFIJの活動展開

オンラインによる全国セミナー・座談会・懇談会などを継続的に開催する等により、広く会員同士の交流の促進と会員参加による活動展開、会員の調査・研究を推進し、成果の活用を図る。

２．新たな森林の空間利用の創出及び林業に関する啓発取組：固定フィールドでの新たな活動

固定的なフィールドにおける全国研修会を企画し開催する。プログラムの企画実施に当たっては、森林生態・生物多様性の保全・地域の歴史や文化・世界の気候変動・SDGsの視点を重視し、全国及び地域の健康・観光・教育にかかるステークホルダーとの協力連携により、森林インストラクターが林業への理解を深めることに力点を置きながら、新たな森林空間利用の創出活動への参画として位置づけ、ブロック主体の活動による取組を進める。

３．森林環境教育の推進：学校教育との連携及びSDGｓ実現に資する森林インストラクター活動の場の拡大

森林を活用した質の高い教育の実現（SDG：目標４）とFIJとしての森林インストラクターの活動の場を拡大する観点から、2020年に開始した「子ども森林インストラクタープロジェクト」に継続して取組む。

４．FIJ第２次３か年計画～実施体制及び計画内容

2022年度：3か年計画の実施体制及び内容

●広報企画編集委員会活動（仮称・会報編集部会・会員交流促進部会）
・会員同士の交流の場の設定（ITC活用による会員交流・勉強会・固定フィールドでの研修）
・FIJ設立30周年記念事業（会報30周年記念号・オンラインでの記念講演）
・オンライン全国セミナー等の企画実施（原則毎月実施）・非会員対象の収益事業化検討

●森林・林業啓発取組委員会活動（関西・中部・関東ブロック理事及び会員有志）
・関西・中部ブロックにおける固定フィールドでの全国研修会を実施する。
（京都地区の研修フィールドについては見直し、岐阜地区については予定通り実施）
・関東ブロックにおける委員会の立ち上げ及び全国研修固定フィールドを実地に検討
・各森林・林業啓発取組委員会内で地域連携について検討・「（仮称）地域連携部会」を設置
〇地域連携による研修固定フィールドの検討
地域の森林に関わるステークホルダーとの連携による研修企画の検討・試行
新たな森林サービス産業に関わる検討の場の設置（オンライン会議システムを活用）
〇観光業の最新情勢の把握及び連携の在り方についての検討
観光業担当相談役の設置・最新情報の把握と会員に向けた発信

●子ども森林インストラクタープロジェクト等の推進（事務局及びFIJ支部）
・助成金、委託事業等を原資とする事業費の確保・緑の少年団活動活性化プログラム開発の取組
・各支部及び地区へのプログラム企画支援・オンラインによる情報交換体制構築

2023年度：計画実施体制及び内容

●広報企画編集委員会活動（仮称・会報編集部会・会員交流促進部会）
・多様な会員（地域、活動分野、年齢層、性別）参加による会員交流の場の運営体制の構築
・オンライン全国セミナーの継続的な実施体制（企画・運営・財源）の構築

●森林・林業啓発取組委員会活動（関西・中部・関東ブロックほか）
・関西・中部ブロックにおける固定フィールドでの全国研修会の継続実施
・関東ブロックにおける固定フィールドでの全国研修試行
・地域のステークホルダーとの連携による固定フィールドでの研修試行
・新たな森林空間利用創出へのFIJ参画についての具体的な検討
・観光業の新たな情勢把握及び地域連携を含めた観光業連携事業の取組推進

●子ども森林インストラクタープロジェクト等の推進（事務局及び支部）
・助成金、委託事業等による事業費の継続的な確保
・支部及び地区へのプログラム企画支援・情報交換体制の構築

2024年度：計画実施体制及び内容

●広報企画編集委員会活動（仮称・会報編集部会・会員交流促進部会）
・多様な会員参加による会員交流の場の拡大定着
・ICT活用による全国セミナー等の継続的な実施体制の構築
・新規資格取得者に対する会員入会率の維持・向上の実現

●森林・林業啓発取組委員会活動（関西・中部・関東ブロックほか）
・関西・中部・関東ブロックにおける固定フィールドでの全国研修会の実施。
・東北ブロックにおける固定フィールドでの研修試行
・地域の森林に関わるステークホルダーとの連携研修実施
・新たな森林空間利用創出へのFIJ取組推進
・新たな観光業の情勢に即した連携の在り方の提案及び試行

●子ども森林インストラクタープロジェクト等の推進（事務局及び支部）
・助成金、委託事業等による事業費の継続的確保
・支部（地区）へのプログラム企画支援体制による運営

●次期FIJ3か年計画（2025～2027)の策定

2024年のFIJの姿

森林を主軸とした活動を展開する資格者の全国組織としてのFIJの役割の実現

①FIJの**ブロック活動**（ブロック活動または隣接したブロックが連携した活動）が継続して行われ、推進・実施する体制（全国または地域のステークホルダーとの連携を含む）の構築が進んでいる。

②FIJの複数の地域で、**森林の新しい価値の創造の取組**にFIJが参画している。

③「森林」・「林業」・「木材」・「山村」・「森林の新しい価値の創造」に関する**会員の調査・研究活動**を推進し、その成果を会員に還元させている。

④**全国研修の固定フィールド**が、FIJ会員の研修フィールドとしてだけでなく、多様な学びと交流の場として活用されている。

⑤**子ども森林インストラクタープロジェクト**の取組が継続的に運営されている。

⑥上記の活動展開を推進するシステム及び体制の構築が進み、FIJの**会員数が安定的に推移**している。

⑦2024年時点での、FIJの現状及び課題、課題解決の方法を検討し、**2025年以降の活動展開について検討し、提案**がなされている。

第2次3か年計画目標とする「2024年におけるFIJの姿」実現

計画内容

2022年度

・会員交流の促進体制の構築：会報編集部会・会員交流促進（ICT活用）部会の設置・会員のサポート及び交流による調査・研究等の促進
・固定フィールドでの研修実施（中部・関西）・複数ブロック（関東・東北等）での森林・林業啓発取組委員会の設置・地域連携研修の検討・観光業連携相談役設置・子ども森林インストラクタープロジェクト・緑の少年団活動活性化プログラム開発

2023年度

・多様な（地域、年齢、性別）会員参加による会員交流促進（ICT活用）部会の持続的運営体制構築及び運営財源の確保等・複数ブロックでの研修試行及び実施・観光業及び地域連携の一体的な取組推進・子ども森林インストラクタープロジェクト成果活用体制構築

2024年度

・新規資格取得者に対する会員入会率の維持向上・関東・中部・関西固定フィールドでの研修継続・東北での研修試行・地域連携研修及び新たな森林空間利用提案・新たな観光業との連携取組・子ども森林インストラクタープロジェクトの連携体制継続・次期3か年計画（2025～2027）策定

第2次3か年計画の3つの柱

1. 会員同士の交流促進と活動サポート　⇒　オンラインシステムの活用等による魅力あるFIJの活動展開
2. 新たな森林の空間利用の創出及び林業に関する啓発取組　⇒　固定フィールドでの新たな活動
3. 学校教育との連携による森林インストラクターの活動の場の拡大
⇒　子ども森林インストラクタープロジェクトの推進

第2次FIJ3か年計画（2022～2024）の概要

第１次3か年計画（2018～2021）の達成状況

・会員数減少対策として、資格者に対し入会メリットを明確に示す等により入会率が向上し会員数が微増に転じた。
・森林・林業啓発取組委員会（関西・中部ブロック）を設置し、固定フィールドでの全国研修の準備を整えたが、コロナ禍により研修実施は持ち越した。
・観光業との連携事業の推進委員会を設置し、2回の全国研修（長野県）を開催、観光業の動向を注視しながら、コロナ禍後については、森林インストラクター主導の企画を大切に展開する必要が明確となった。
・新型コロナ感染対策事業（文部科学省）に応募採択された委託事業を契機に、「子ども森林インストラクタープロジェクト」を開始するなど、学校教育との連携事業による森林環境教育の推進と推進体制を構築した。

現状と課題

・コロナ禍のもとで一般化したオンライン会議システムの活用などICT活用により、全国の会員の交流促進や活動のサポートを一層促進するなどにより、FIJの活性化及び資格者の入会率の向上につなげる必要。
・森林・林業の役割の重要性を伝えるための研修固定フィールドを複数のブロックで設定し、全国研修を試行・実施する。地域連携や新たな森林空間利用の創造に向けた健康・観光・教育の視点での取組が必要。
・子ども森林インストラクタープロジェクト等におけるプログラムの高度化、活動事業費の安定的確保が必要。